

FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

11月30日は「年金の日」（いいみらいの語呂合わせ）です。厚生労働省のHPを見ると、“国民一人ひとり、「ねんきんネット」等を活用しながら、高齢期の生活設計に思いを巡らす日”とあります。

国民年金や厚生年金は私たちの老後の生活を支える基礎となるものです。自分の場合はどうなるのかを年金定期便や年金ネットで一度確認しておいてはいかがでしょうか？

お手元に保険料控除証明書は届いていますか？

保険料控除証明書は年末調整や確定申告に必要になります。再発行には時間がかかることがあります。もしお手元にない場合には早めにご連絡ください。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

生命保険の話で良く「万が一」と言いますが本当は？生命表で実際にはどのくらいの方が若くして亡くなるか見てみましょう。

1か月1000万円以上の高額医療費の件数、過去最高

9月に健康保険連合会が発表した2020年度の「高額レセプト上位の概要」によると、1か月で1000万円以上かかる高額医療費の請求件数は1365件あり、前年度に比べて514件・60.4%増となりました。

最も高額だったのは昨年保険適用になった脊髄性筋萎縮症の治療薬、ゾルゲンスマを使ったもので1か月に1億7147万3440円でした。

高額請求上位

1	171,473,440	脊髄性筋萎縮
2	168,293,600	脊髄性筋萎縮
3	168,109,980	脊髄性筋萎縮
4	168,012,230	脊髄性筋萎縮
5	167,629,410	脊髄性筋萎縮
6	167,619,660	脊髄性筋萎縮
7	167,330,680	脊髄性筋萎縮
8	110,162,900	血友病A
9	60,569,670	血友病A
10	37,728,480	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫

今後も「優れた治療薬」が開発されると思います。患者や家族にとっては喜ばしいことです。

一方、医療財政や高額療養費制度が現状のまま維持できるかなどは気になるところです。加入している保険などはしっかりと確認しておきたいですね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

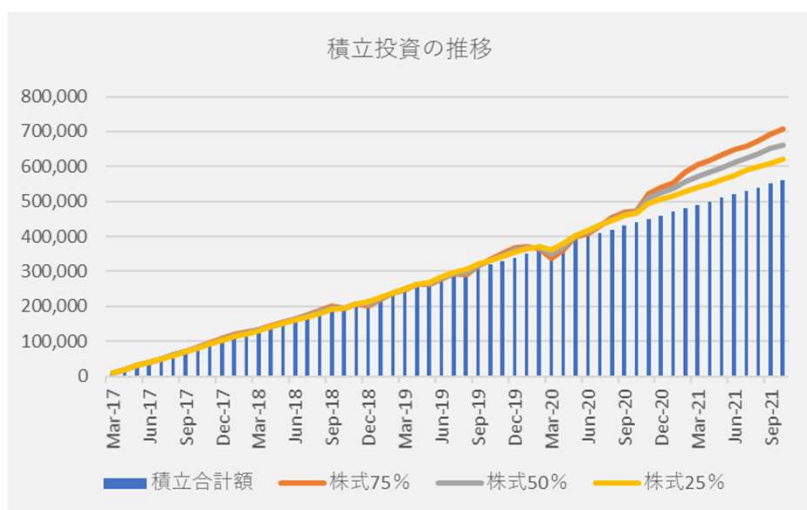
info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年8末	540,000	674,575	636,204	600,801
2021年9末	550,000	692,099	650,926	609,720
2021年10末	560,000	706,416	662,180	619,862

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

	日経平均	NYダウ	ドル円
9月末	29452.66	33843.92	111.28
10月末	28892.69	35819.56	114.00
	-1.90%	5.84%	

NYダウ大幅上昇

10月のNYダウ平均株価は月末終値で高値を更新しました。

9月の利払いがなく、破綻が懸念されていた中国不動産大手は、30日間の猶予期間中に利払いが実行されやや懸念が遠のきました。

さらに米国企業の決算も好調だったこと、金利上昇が一服したことなどから米国株価は大きく上昇しました。

ところで最近話題の原油高ですが、昨年4月には原油先物価格がマイナスになったことを憶えていますか？

当時は、コロナによる移動の減少で、原油相場の回復は困難、という論調がほとんどでした。しかしながら、それらの解説と裏腹に原油価格は現在約80ドルにまで上がっています。

値動きを解説するニュースなどに惑わされないことの大切さがここでもわかりますね。

引き続き米国金利の動向、新型コロナの感染状況、中国不動産企業の過剰債務、などが話題になり株価が大きく下落することもあるかもしれませんが、そのような時も落ち着いて積立を継続することが大切です。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどに対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

今までは良かったかもしれませんがこれからは不安定なのでは？

積立て投資を始めようと検討している人からよく出る質問です。下記はテレビなどにもよく出演する著名エコノミストのコラムのタイトルです。

「過去の経験則が通用しない不確実性の高い経済・金融見通し」

一般の個人の方に限らず専門家も同じようなことを言っていますね。

下図は1985年1月から2021年10月までのNYダウ平均株価の推移です。36年前に約1300ドルだったNYダウ平均株価は今年、11月に入り36000ドルになりました。



思い起こしてみるとこの間もたくさんの不透明、不安な出来事があったことに気づきます。

昨年のコロナショック、多くの国がロックダウンになり、これからどうなるのか、世界が大きな不安に包まれていたことは記憶に新しいと思います。

私たち自身もこれから仕事は、学校は、生活は、と不安に感じたのではないのでしょうか？

1年半たった今、人々の新型コロナに対する気持ちはどうなったのでしょうか？随分と落ち着いて見ることができるようになったのではないのでしょうか？

2008年にはリーマンショックが起きました。リーマンブラザーズを起点に大手金融機関に信用不安は広がり、信用収縮から景気は低迷しました。

マーケットも大きく変動しました。株価は高値から半分以下まで値下がり、為替も一日に数円動くなど、どうになってしまうのかわからないような状況でした。

2001年9月11日にはアメリカで同時多発テロが起きました。民間の航空機が高層ビルに突っ込むというようなテロが起こることを予想していた人はいなかったのではないのでしょうか？

テロそのものにも衝撃を受けましたが、その後の湾岸戦争に向け、イスラム教社会とキリスト教社会の世界戦争になるのでは、と大きな不安を感じました。

1987年のブラックマンデーでは、一日に株価が20%も値下がりしました。今のNYダウで言うと7000ドル安です。しかもいまだに明確な原因はわからないのです。

これ以外にもチャイナショック、ギリシャショック、局地的な紛争、オイルショック、など振り返ってみると不透明に感じるのは今だけではなくたことに気づきます。

では、不透明な中、なぜ投資をしても成果を得ることができたのでしょうか？

それは、不透明な中にあっても企業は売上・利益を上げる活動を継続しているからです。

短期投資では、見通しを当てる必要がありますが長期投資では見通しを当てる必要はありません。

企業活動が継続していることを確認できれば、後はその成果が出るまで待てば左のグラフのような成果を得ることができるのです。

ちょっと気になるお金のコラム

令和2年簡易生命表によると男性の平均寿命は81.64歳、女性の平均寿命は87.74歳でした。今後はますます寿命が延び人生100年時代などと言われています。

下表は平均寿命の年次推移です。改めて日本人は長生きになったと実感しますね。

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
22	79.55	86.30	6.75
27	80.75	86.99	6.24
28	80.98	87.14	6.16
29	81.09	87.26	6.17
30	81.25	87.32	6.06
令和元	81.41	87.45	6.03
2	81.64	87.74	6.11

長い老後に備えるための準備が大切なことは多くの方が理解しています。

一方不幸にして早く亡くなってしまう方がいるのも事実です。今月は長寿化や高齢化の引き合いに出される生命表を反対側から見てみます。

成人式を迎えた20歳、無事定年を迎えるのは何人？

右上表は生命表（男性）より0歳、20歳、40歳、65歳の生存数を抜粋したものです。

年齢	生存数	死亡数	平均余命	平均寿命
0歳	100,000		81.64	81.64
20歳	99,545	455	61.97	81.97
40歳	98,385	1,160	42.57	82.57
65歳	89,722	8,663	20.05	85.05

生存数は0歳の日本人10万人がその後何人になっていくかを表しています。平均寿命とは0歳の人の平均余命で、現在81.64歳です。65歳まで生きている人の平均余命は20.02年なので平均寿命は85.05歳になります。

0歳児10万人のうち成人式を迎えることができたのは99,545人、455人が亡くなります。

その後40歳を迎えることができたのは98,385人、この間1,160人が亡くなっています。成人式の時に会った同級生100人のうち1人強が亡くなっている割合です。

40歳から65歳の25年間は8,663人亡くなっています。11人に一人ぐらいの割合です。会社の同僚の何人かは亡くなっているかもしれません。

この時期は社会でも家庭でも大きな責任を担っています。住宅や教育などの支出も多くなる時期ですね。

20歳から65歳でみると99,545人が89,722人と9,823人、割合にすると約1割が亡くなっています。生命保険の話をするときによく、「万が一」と言いますが実際は「十が一」だったんですね。

老後の備えは勿論のこと、この「十が一」に対しての備えもしっかりしておく必要がありますね。